

公園気づきプロジェクト ニュース 2号

8/26 (日) 思い出会

遊具以外の公園の環境をつかった遊び方を模索するために、穴師公園でやりたいことを自ら考えて実施するセルフ・バリュー・キャンプ「あなパーでワクワクすることやってみよう！」を行い、当日の様子を撮影したDVDを、参加した子どもたちと保護者のみなさんと一緒に観て、感想や意見交換を行う「思い出会」を開催しました。



子どもたちとのふりかえり



みんなでキャンプ当日のDVDを鑑賞



保護者のみなさんとのふりかえり

楽しかった。
暑かった!!

まだまだ泊まりたかった!

普段の公園を
よりいっそう楽しんでいる子
どもの様子を見れた。

「どうしたらできるか」の言葉
をたまに思い出してくれてい
る。

セミの羽化が
いっぱい見れた!

楽しかった!
また行きたい。

イキイキと
楽しそうだった。

穴師神社への
夜の散歩が
おもしろかった。

良い笑顔で
帰ってきました。

自分でやってみようとい
う子になっていた。

「公園気づきプロジェクト」は、地域の特性やニーズを踏まえた賑わいの創出や魅力的な特色ある公園づくりに向けて、公園のあり方を市民の皆さまと共に考えるプロジェクトです。市民ワークショップや、穴師公園での社会実験、公園アンケートを実施しています。本プロジェクトの取組みは、「公園気づきプロジェクトニュース」でご報告していきます。

公園アンケート実施報告②

ニュース第1号では、市内イベントで実施した「公園アンケートブース」の様子を紹介させていただきましたが、今回からは、今年の3月から4月にかけて実施した「郵送アンケート」の結果の一部を、ご紹介させていただきます。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

【質問】あなたがよく利用する泉大津市内の公園はどこですか？

【アンケート集計結果】

アンケート回答者に、最も利用されている公園は、タコ公園の愛称で親しまれている「古池公園」でした。上位5公園は、右の結果となりました。

(有効回答数：404)

1位 古池公園(49票)

2位 東雲公園(43票)

3位 穴師公園(28票)

4位 助松公園(21票)

5位 東港公園(15票)



第1回公園市民ワークショップ開催

泉大津市の公園について考える公園市民ワークショップが始まりました。10月から来年の1月までに、全4回を開催する予定です。ニュース中面で、第1回の様子をご報告いたします。

モデルプロジェクト『思い出会』の開催

モデルプロジェクト「あなパーでワクワクすることやってみよう！」の『思い出会』を開催しました。ニュース裏面でご報告いたします。

■ 公園市民ワークショップ開催予定

第1回
10/20 (土) 10:00~12:00
「公園と暮らしを考えよう」

第2回
11/10 (土) 10:00~12:00
「公園でできることを考えよう」

第3回
12/8 (土) 10:00~12:00
「公園と地域のこれからを考えよう」

第4回
1/27 (日) 10:00~12:00
「公園の将来像を語ろう」



第1回 公園市民ワークショップ

テーマ：公園と暮らしを考えよう

なぜこんなワークショップをするの？

日本では、経済成長にともない街が発展していくなかで、多くの公園が作られてきました。市内にも70箇所以上の公園が存在します。しかし、成熟社会を迎え、人口減少時代に突入したこれからは、「つくる時代」ではなく「つかう時代」。泉大津市には、大小さまざまな公園があり、よくつかわれている公園もあれば、ひょっとしたらもう誰もつかってなくて要らないんじゃない？という公園もあるかもしれません。

これらの公園を、どのように活用していくとよいのか、どうリニューアルしていけばよいのか、市では、今後の公園づくりの指針となる「公園整備マスタープラン」の策定を進めています。

このマスタープランづくりのため、市民ワークショップでの検討や、市民アンケートなどから、市民の公園利用の実状や地域の特性、これからの公園に期待されていることを、探っていきたいと考えています。



公園ってどんなところ？

公園には、遊具だけでなく、ベンチや花壇などいろいろな施設や要素があります。実際にどんな施設があるのか、市役所の前の東雲公園をみんなで歩いて見ました。



■ 東雲公園を見た感想や意見

- たくさんある施設が「中途半端」で使いづらいのではないかと感じた。
- 無駄なスペースも多いと感じた。
- 緑が、空間の隙間を埋めるだけの存在になっていて、使いづらいのではないかと感じた。
- 植栽は、本当に必要なのか、どのように管理していくかも考える必要があるのでは。
- ベンチや健康遊具が、使いづらい場所に設置されているように思える。
- 段差のある場所が多く、高齢者の方々にとっては使いにくいのではないかと感じた。
- ボルダリングなど夢のある遊具、ぐるぐる走り回れる園路、夏場に水遊びができるような場所ができるとうれしい。
- 東雲公園は、よく使われており、時間帯によって利用者が変わる。公園の利用を考えるときは、ターゲットが色々いると感じた。
- 公園全般に共通するが、ボール遊びができる場所が少ない。
- ボランティアがお世話をされている花壇があってよいが、公園の外から見えないのが残念。道沿いなどの見える場所にしてはどうか。

つかう？つかっていない？ 「わたしたちの公園事情マップ」づくり



■ 「わたしたちの公園事情マップ」づくりからわかってきたこと 市内の公園をつかい分け

自宅から公園までの距離だけで、利用する公園を選んでいるのではなく、遊具の種類やスポーツなど利用する目的、子どもの年齢にあわせて、市内の公園をつかい分けておられることがわかりました。

よくつかわれている大きな公園

古池公園や東雲公園など大きな公園は、遊具も豊富で、グラウンドもあり、よくつかわれているようです。家から遠くても利用するという意見が多く聞かれました。



古池公園



東雲公園



助松公園



なぎさ公園

みなさんは、泉大津市で暮らしている中で、どのように公園をつかわれていますか？

第1回公園市民ワークショップでは、市全域の公園が描かれたマップに、つかったことがある公園に●赤いシール、近所にあるけれどつかったことがない公園に●青いシールを貼って、つかう目的、つかわない理由を書きこんだ「わたしたちの公園事情マップ」を作成しました。



海辺の公園

海辺にある公園（港湾緑地）にはグラウンドがあり、スポーツによく利用されています。なぎさ公園も、散歩や海辺でぼーっとのんびりできる場所として、利用されています。

小さな公園

家の近くにある小さな公園は、「つかいたい時にすぐにつかえる」、「大きい子が遊んでいないので、小さい子を遊ばせやすい」という利点がある一方で、「小さすぎてどうつかえばよいか分からない」、「公園と認識されていない」、といった意見も聞かれました。

子どもをはじめいろんな人が利用

子どもの遊びはもちろん、朝のラジオ体操、犬の散歩、地域の盆踊りやイベント、ノルディックウォーク、デイサービスの散歩、グラウンドがある公園ではソフトボールの試合など、いろんな人に、公園は利用されています。

公園をキレイにしてくれている人の存在

「公園がキレイだと、花壇の手入れや清掃をしてくれている人がいるのだなぁと安心して利用できる」、「公園をきれいにしてくれている人の存在がもっと伝わるようにできないか」といった声も聞かれました。

つかわれていない公園

近くにあるけれど、「小さすぎる」、「草がぼうぼう」という理由で、つかわれていない公園もありました。「子どもが少なくなってきたのではないかと」、「いらぬ公園もあるのではないかと」といった意見もありました。